令和元年度　自己評価報告書

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和２年6月1日

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　学校法人小牧外山学園　とやまこども園

１．本園の教育目標

　　見る・待つ・引き出す保育、笑顔と歓声があふれる保育、手を取りあう保育を通して園児の主体的な活動を促し、遊びを通しての指導を中心として、幼児期の終わりまでに育つことが期待される、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度などを育成する。

２．本年度重点的に取り組む目標・計画

　　　　一人一人の子どもの発達を、見通しを持って丁寧に捉え、年齢に応じた発達を助長する園の環境を整備する。

３．評価項目の達成及び取り組み状況

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 評価項目 | 取り組み状況 |
| １ | 幼児の姿を多面的に捉えるようにする。 | 遊びの中で直ぐに答えを出すのではなく、子ども達に投げ掛け共に考えたり、いろんな意見に共感したりしている。また、毎日のミーティングで他の保育教諭の話を参考にしながら、自分の保育を振り返り、次につながるようにしている。 |
| ２ | 幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境を再構成する。 | 子ども達の興味・関心がどこにあるのかをしっかりと捉え、子どもの気づき・発見を見逃さずに声を掛けたり、子どもが考え、創意工夫できる時間や遊び続けたくなる場を保証するようにしている。 |
| ３ | 教職員で一つのチームであることを自覚する。 | 毎日のミーティングで小さな問題点でも報告し合い、早めの解決に努めている。また、良い所やアイデアを認め合い、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。 |

４．総合的な評価結果

　　　　子ども達の成長を全職員が丁寧に捉え、保育を振り返りミーティングで伝え合ったり、園内研修を重ねてきたことで、様々な課題を見出すことができた。

５．今後取り組む課題

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 課題 | 具体的な取り組み方法 |
| １ | 職員間の連携 | 主任を中心に乳児・幼児の保育教育活動を共有し、協力体制を強化していく。 |
| ２ | 保育環境 | 子ども達が主体的に活動し、遊びがより充実するよう、環境や援助の在り方を話し合う。  ミーティングや園内研修を継続し、幼児理解により一層努める。 |
| ３ | 安全管理 | 危機管理マニュアル等を職員間で共通理解し、意識の向上やマニュアルの改善を図る。  地震の備えについて再確認し、不足部分は整えていく。 |